

武江年表

荒
武江年表

五



リ 5
112
5



武江年表卷之五

延享元年甲子

二月十八日改元



二月朔日より湯島天満宮境内にて下野若船地落開帳○同日より市谷
 八幡宮地主茶本稻荷社開帳○二月六日夜子上刺天中央より少一西の方一
 如以星現る嘉瑞とす○二月より護國寺を武州泚嶽山藏王
 檀現開帳○三月より浅草寺内松尾明神開帳○二月十五日より三日の
 石中村麩三并芝居身初の初年より百二十一年の壽程言奥行○矢口
 新田社廟の碑を立南郭文を撰次○四月三日儒師山本順次率 名信一柳島
 ○約辺新日山王宮營建○四月朔日浅草光感寺尚麻呂毛曼茶社を
 拵せむ○四月より獲國寺にて上品碓氷郡松井田金剛寺十一面觀世音

武江年表卷之五

碓氷定光 閑帳 ○ 四月朔日より赤川八幡宮地内にて 伊勢白子子安親世音閑帳 ○ 守本尊 八月十三日より回向院にて

夏より冬まで法園風邪流行 ○ 六月十五日 神道 岡田盤舟卒 名正利林丸を 乃安 ○ 七月朔日より回向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢陀閑帳 ○ 七月 小葬 ○ 七月朔日より回向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢陀閑帳 ○ 七月

元八幡宮内氷室明神閑帳 ○ 七月朔日より芝林明宮内にて箱根光明寺 十一面觀世音 依後太 閑帳 ○ 七月九日 家山本惟命卒 林忠方妻 二回竜原寺小葬

○ 七月晦日 倭人 中川宗瑞卒 暢隨院 小葬 ○ 七月海中魚多死生簀比魚 也同トク死せり ○ 八月八日 不動尊内にて大磯切通一梅林寺身代

地蔵為閑帳 ○ 九月廿一日 山谷町本性寺自雲靈神忌日之 松州川辺郡 孫右衛門と改む法花を信トて常以統徒唱歌以三十八所せりまふるましく死後 終るより秋山自雲灵神と祭る ○ 九月廿七日 金雕工土屋安親卒 七十六才通林鉢八

○ 釜師浄林卒 月日 不詳

延享二年乙丑 十二月間

二月朔日より茅場町茶師境内にて信及蓮地院派訪本地勝軍ふ勤為閑帳

○ 二月六日 龜戸天満宮近隣の在家より火出く先祖信社が建立せし社政以下一宮 也跡より焼亡せり ○ 二月より 濱谷長谷寺大徳親世音漸首仏閑帳 ○ 月十一日

より回向院にて上洲根山正法寺親世音閑帳 ○ 二月十二日 朝五時迄千路谷より 出火青山跡ら様因麻布三軒家本村氷川社若福寺門前廣尾白令村二箇保

四子白令瑞聖寺様町車町等論南小泉川追焼亡 武家町巻懸くく 翌十三日 鎮の言論如來ちふまらる個唱が他丈六の仁王等此石像并地蔵等の石像も

焼亡せり方々 白金細川侯内中ト其の辺伊四子の 四ノ百三十年目までの焼焼と云ふ ○ 四月朔日より後念言徳院寺

あて常陸小金井妙徳寺日蓮上人閑帳 ○ 月日より回向院にて根洲茶権山林一

寺圓光大師引接鉢陀如來閑帳 ○ 月日より牛込田福寺にて相洲妙徳寺同星

降梅日蓮上人像開帳 ○同日より所蔵前八幡宮内之信州西界山建龍寺不

動音開帳 ○同月二日より本所より目大佛勧進所之南於東大寺二月堂觀

世音鉢陀如來開帳 ○四月より護國寺蟹清水出現某師自坊之開帳 ○

四月十八日書家関口黄山卒 名忠貞 小日向金剛寺小葬 ○七月朔日より伊勢朝熊岳金剛

燈寺虚空藏并回向院之開帳 ○同月六日より茅場町某師内之相勸令

同山坂東七番目聖觀音開帳 ○八月十九日大風雨芝所辺竜巻有り ○九月十

四日大風家屋を換之 浅草福井町浪杵八幡の 浪杵古樹次郎 ○十月十日儒師長次東海卒 名五字元丁 深川徳徳

延享三年丙寅

二月朔日より隅田川本母寺梅若丸寺本寺文殊菩薩開帳 ○同日より雜司谷

本納寺より相州系教寺休息日蓮上人開帳 ○二月廿九日夜正時於築地本願寺

殿武家方より必火之この志武家方一東南八町堀本八町堀茅場町小堀町大

坂町堀町葺在町芝居由座村松町堀町北辺武家方より哈町濱町河堀町米沢

町本所小泉町横堀町松井町相生町龜澤町辺武家方浅草より小堀米中七延燒

翌朔日夕七ツ時迄 浅草古の東側の 坊舎の未刻燒 ○二月晦日昼本所美山寺横堀より出火大

風此辺の寺院多く燒亡 ○三月より浅草寺内松壽院丈六每丈天暖花像開帳

○書家赤井得水卒 林文次子 伊勢町住 ○四月朔日より橋上寺常照院 中 芝浦出現

鉢陀如來開帳 ○同月より湯島天神内にて常州麻島護摩堂本寺五丈の

五開帳 ○下落合某寺院釈迦如來開帳 ○四月烏丸光榮公園東山下向所

道の祀ありうらぬの漢の祀といふ 写本 一巻 ○浅草池の妙音寺より駿河蓮永寺

日蓮上人鏡於開帳 ○目黒不動寺境内より下総葛飾郡正覺寺不動音開帳

○半邊京町後主寺より京上寺羽実相寺兩新日蓮上人像開帳 ○六月十

八日より六月十八日迄 日延 三十日 浅草寺觀世音開帳 ○月廿六日より所蔵前大護院

八幡宮本地愛深明王開帳 ○六月十日儒師藤江邦良卒 林深藤西久保 ○七月

朔日より儒師下地苑為開帳 ○七月より本所彌勒寺川上某師如來開帳

○七月十日秋澤章彌池田利其紀伊必強執務の三人浪更川に細を打て一寸

七分の不勤等の儀と為り大同二年宣海と彫る谷中妙林寺不安置以 ○九月

芝神明宮神主西東寺某中天満宮吉草聖像を移せむ ○九月朔日より谷中

大系寺あり大延天開帳 ○十一月矢日新田社別當成徳院本堂方丈障檜その他

とも焼亡 ○事始合考字本成 柏崎永心 ○江戸あり二冊持形 本多

○江戸名勝志持形 友之藤若 三卷 安藤子

延享四年丁卯

二月朔日より浅草寺内梅園院子育仁王尊開帳 ○同日より浅草新地末形寺

某師如來開帳 ○二月九日外堀田火事徳慶の藩邸敷地九十宇と云 ○浅草

八新寺町本法寺あり安房赤茶小松系鏡息寺日蓮上人像開帳 ○牛込七新寺

町久成寺あり後河原本日蓮上人像開帳 ○二月朔日より谷中一宮寺子安鬼

子母神開帳 ○山谷法養寺あり甲加敷淨經五寺日蓮上人開帳 ○二月悪

黨濱島店去清并堂敷刑せらる世と云 ○四月朔日大霜降つ

り ○同日より深川永代寺あり大坂津城徳生玉明神開帳 ○同日より谷中

妙法寺あり中山日蓮上人像開帳 ○同日より廿日追押上某寺あり尊賢菩薩

開帳 ○二箇寺町林泉寺あり其為賀英郡牛島仙村住生寺園光大師開帳 ○

牛込神樂坂元寺親世寺不動尊開帳 ○小石川若雄寺あり引地苑為開帳 ○

高橋正覺寺跡地如來開帳 ○徳江宮成院 社 神田明神北隣に移る 後安永

後江ふ 中元の ○六月十七日儒師菅野兼山卒 七年大召直書 ○六月二日俳人小川破多卒

八十金大名字有祿平助惟勝兼又再せよし 谷中玉持より書 ○六月廿七日俳人致曲庵遠志卒 七十六大時

又塗物中ありありの細工不あり桶下と信せり 報恩寺地中

○六月廿日太宰春卷平 八十八天林跡在清門 谷中 天現寺小築 ○春川秀蝶也宿社(祇園會相園の額を掲ぐ) ○淡草大復院八幡宮修復助成の爲三年の月晴久八日りの寄進袈裟あり ○七月廿日より回向院より羽州陽殿山往連寺大日如来開帳 ○八月より回向院より上徳園小田森大森寺 祇園如來開帳 ○十月上旬より諸本風邪流行 ○十月廿日休人菊岡治味卒 六十余才 名房新号 米山 崔下 菴林 菴 在 橋 門 林 回 祇 園 住 江 守 妙 子 世 世 終 了 あり あり 俗 諺 志 中 外 表 達 多 あり あり 有益の也 男 政 遠 恒 軒 と 号 あり

此年間記事

真先稻荷社延享三四年の以より諸人多く整案せり ○谷中多岐稻荷末務取 ○風園 高山派修驗 解致あり 陽橋又林中坂より聖堂根(後) ○延享二年の美江戸の流行物を集めり句集あり時味風と歌之時(門人友故亦果然といふ人の編) 再ハ書合 されあり 其内を撰て目次のをせたりあるは

△浮繪 遠来の山水 △雜司谷合式佈物 △門百夜系 △門風車 △志道新講釈 △中野桃園 △富が長吹矢 △丁子屋敷た境(香具) △女南力 △紙衣又良去清 △辻宝引 △象股引 △券角力 △大名儉紙 △聾道心 △竹村慈憐 △多岐稻荷 △西面帯 △雷鶴之介相撲 △芝鏡切取 △赤坂奴 △正徳寺紅巻 △薩摩芋 △珍重せし △回向院系淡雪 △池の端植花 小間 △深川筑紫麦 伊佐橋 △牡丹屋敷 花廿日牛込向とすべ △海老巻蛸蛉賣 △巻石下植木市 △淡草園十良艾 松下 菊とあり △湯島油揚 △伊四子越 △霞面取巾 △山下敵格 一統子 豆ま 姑や ちんね 牧童 園中 小 花 花 と 云 霞 巻 あり 土 及の類 未考 △中村屋賣物 備後 萩 △吉永屋籠 △新邊坊主 未詳 △麒麟の助 經 業 △深川帽子 △兼平様 △忍儉紙 未詳 △鳥越口骨 △巻紙賣 風俗也 △巻紙屋 酒 うり △芝菜 若 芝 ぶ や や 艱 の 葉 け かり 仲 指 △廣澤石摺 △豊後節 △大名燈籠口 △神田此 考の者 △羽織長紐 △江戸川植木 矢場 △狂言他若津打治長清 △熊野十二所

△涼紙大星

新米や二三日つらつら山狩野實信涼紙の
水戸の画師も七日の出来を画くものあり

△八人藝

△智恵夜
今も是夜のりて
世にちの板を

△弓子丸 △扇極傑

丸は角巻扇紙六角巻扇とに形を交へる中
扇巻扇の紙を色入中とつくりく漉し

△加賀骨扇 △蕃林

△地蔵尊

△懐紙折

△狂言坊

△木葉餅

何れも勢をいれむ

○婦女のわがさうといふ物始る後一旦廢れり寛政より再度あり○郡内

微塵偽衣類を穿る○江戸路古依呂紀本館木の標芝居ありしは

次第小廢れ大改の爲たまにあり

寛延元年戊辰 十月間 七月十八日改元

二月二日夜谷中瑞林寺より出火本堂塔以下燒亡感應寺

本堂塔頭門前町燈燒亡○三月十八日より魚籃觀世音閣帳○四月より

三田屋町泉福寺某師閣帳○四月廿日より魚籃下大信寺觀世音閣帳

八月廿五日官醫曲直齋若瑞卒 六十三才養安院と号す 麻布大寺寺小築也 ○三月廿九日南郭の長子

温心卒 三才 ○四月廿日より日蓮宗天壽院如來靈寶閣帳 ○四月より

永代寺八幡宮閣帳 ○二月後兼敬寺祖師閣帳 ○浅草日福寺本折回向院

の内の折は於て奥明會津西光寺日蓮地蔵閣帳 ○六月朝鮮人未曉

副使南恭孝從率曹命某旅宿東本於ちり ○八月十日書家馬場夷水卒 号者 洪啓禧

真程金齋并といふ人淺草寺瀧堂の願也書す ○十二月琉球人某碑

市谷長島 寺小築也 ○奥澤村浄土寺 燒失

同二年己巳

正月廿三日長續流孝道祖長権耕雲卒 六十二才林中在焉 解南淨林と号す ○三月廿一日儒師桂

山義樹卒 号杉屋林と号す 号 隆安社極威光院と号す ○今年林佛啓龜肇りの月日詳あるは開

帳記によつてたよるは

○深川海傍并大天古川某師如來安養品川寺水月觀音三ノ輪其親世者
秋葉控規四谷成院鹽踏地爲淺草其相東住院爲橋并大天後其内
日者院荒澤不動爲月松壽院大六并大天殿爲本爲池の妙音の妙見并
不忠池并大天文殊之地のを造りて納む武平より芽下迄谷中長蓮寺祖師鬼子母
并三田寺町明五院弘法大師の和歌海寺不動爲右佐風自坊小居村の園帳之
○本母寺梅若丸二十方五千日供養○二月九日八回向院の於之常陸國河内郡
大徳村宝積寺子安并大天園帳○四月朔日より五月晦日迄回向院の之三河
小山中檀林法苑の出世親世者園帳○五月十九日六月二日迄龜戸妙藏山
権現并帳○六月八日羅漢寺中興先和爲寂七十○六月四日北村湖元平
江谷日宗○七月朔日より回向院の於之信長若光寺本門前西荊萱親子地
爲爲園帳○常夏中より雨繁降之七月も晴雪の廿五日より大風

爲りより爲り續々八朝大風起り時々雨降八月十二日の曉より小風大
嵐となりて半辺小日向出あり下谷淺草辺迄溢れ出る園園口辺流を流し人々
湖を江戸川邊へ押し流し小石川通大木神田上水掛樋流を昌平橋氣
邊橋より外神田川橋へ流る由國橋大橋迄江中和津川水邊の於九月
より御時又とあり○八月光物苑の○雜司谷鬼子母并境内の孝女の宛と
りりの表芝菜のを伴る角吉清獅子を賣り給む○十月十八日茶人望月
宗舟宗舟率号之海新宗舟○新著聞集十八冊刊行中古世の中の時柄とありあり○今年江の
橋并大天本社の之園帳あり江中より系清の遊幸あり

寛延三年庚午

二月十五日より下谷高岩寺地爲爲園帳○高回感通の毘沙門天園帳
○三月十八日より晴天十五日迄橋河門外畠地の於之俗親世の是初進能

身あり ○房州加茂村日蓮寺祖師浅草

七月迄芝泉岳の釈迦如来開帳 ○日暮里本町の小道灌丘碑を立籠波山人

石正持文を撰む ○四月廿三日朝曇八ッ時迄雨小大風田大霰降

也之家を流石小川町番町八ッ位迄遠外物進程草書

信去寺不動尊宿帳 ○七月より浅草寺如来院より越後西海寺経院如来

私智法印像開帳 ○七月七日儒師中尾廣徳卒

儒師井戸甘谷卒

此年回記事

延享四年三月の以より不忍池の築地出来て茶店場弓場溝敷場未建
法をね整思一又寛延二年舟大島の島より西茅町の表一板橋を折折はし
て架けおふりりて八ッ時迄依て八ッ橋としたり越るは沈の軽多死由老て

毀ちおらる ○以時代より開帳場は神佛より以儀をまする事始なり

○江戸史抄六十帖写本成

延四年の再行熱麻子の以時世の商物を載れども二書書おらるる故ら小

抄抄せぬ ○傀儡師江戸の方言よ小描といひ一月二七八度同しおせ也

まが以時代より絶たり ○宗十郎政中を中り出以 ○寛延四年江戸圖

ふ天文巻神田佐久間町二丁目三丁目のふあり 池の端築出し新地と記り

白山河殿は菜園と名風園寺聖堂南ふあり

寶曆元年辛未 六月間 十月三日改元

二月十八日より護国寺親世音開帳 ○三月十日佛人石賜子卒

○三月十八日より浅草寺親世音開帳

○三月廿一日は月見日中

本下川浄光寺某師如來開帳 ○月廿二日より平井村燈明寺にて成田不動
 尊開帳 ○四月朔日より浅草報恩寺親雲上人運物を替せしむ ○月日より
 浅草寺町正福院柳福石開帳 ○月日より回向院にて甲五若光寺保隆如
 來佛開帳 ○系於本満寺祖師谷中妙法寺にて開帳 ○其全枝
 因縁七面大明神開帳 ○大師河原年間より大師開帳 ○祐乳山聖天宮二并
 帳 ○浅草寺町 寺依渡塚系振本寺祖師開帳 ○所義寺八幡宮
 開帳 ○四月朔日より湯島社地にて秩父子権規開帳 ○月日より正福
 寺八幡宮にて夏五加茂郡最勝院釈迦如來開帳 ○浅草寺町正福
 院にて藤倉永谷貞昌院天満宮開帳 ○谷中妙法寺不動尊開帳
 ○不忍寺才天寺にて常陸水戸玉里妙法寺不動尊開帳 ○六月三日
 待入並田窪樓平 名伯隣本町丁目五番五番茶店のある一あり ○八月廿日
白石の門人あり一階とある

荷田在満東於平 平より東に進法堂を新築す小藝以男所住 ○九月毎日佛人
秘本義とあり江戸において五字を教授也
 小沢ト尺平 候者抄を著し華次 ○十月十日儒師市野光業平 字子暉本寺教の中
本和丁の坊より ○古来女藝者といふ所の今年より始る 病室の奇仙といふ所の始りより進ん
出来り一より候は昔物指あしり
 ○再訂江戸惣席子石研大全持行 奥村玉華編 ○南向茶話字本成 酒井氏
江戸地理沿革の回答あり明和二年の 七冊 忠昌著
 逸考を合し一部とす

宝暦二年壬申

正月四日物産家丹羽正伯平 丸山寺坊 ○二月二日より三圍稻花町社開帳
おの華次
 ○二月廿二日より中のや如玄輪寺聖徳太子宮帳 ○二月廿五日天満宮八百又
 十年新忘 ○月日より湯島天満宮翻町平河天満宮 小石川牛天神 東鴨
ニヤウ寺ら
 小系町天満宮開帳 飛戸天満宮へ今年社建立成て二月十九日より廿五日まで
 開帳 ○二月廿八日より同是不動尊開帳 ○三月朔日より湯島社地にて伊豆

八丈島為朝明神開帳○四月朔日より龜戸河嶽山権現業平天神おんたて
 吾妻森吾妻権現あまのりつ龜戸門院うらひん正親寺しんしん木母寺もも梅石の宮うめいしのみや文殊井もんじうゐ龜
 戸竜眼うらひん中嶽権現なかつたけ神宮かみみや右依れみぎより自坊みづかみ於お開帳あり○四月朔日より
 日向院ひなたのいん之系ちか知恩ちか田光たのひかり大師おん利劍りけん名号なごう開帳○同日より半込京町妙山寺
 ありこま房ふら及およ小湊こみなと誕生たんにん寺てら祖師そし開帳○丸山まるやま津つ心こころ寺てら祖師そし谷や中なかありあり祖師
 開帳○四月々麻布あさふ光雲ひかりぐも寺てら大師おん河か系けい法ほ宝ほう院いん地ち龜か井い開帳○四月より
 目録めろく寺てら福院ふくいん誕生たんにん八幡宮やちまのみや開帳○五月深川ふかがわ二十にじゅう二に方ほう堂どう重修しゆしゆ○六月廿日
 池いけの端はた妙めう地ちの系けい屋や六む十じゅう軒けん外がい家け敷しき除ぞ多た引ひ拂ひせせるる
 ○七月初日より湯島ゆが社やしろ地下野ちかのの那な須す野の泉いづみ濱はま寺てら殺ころ生せい石いし化け度ど聖せい觀くわん音おん開帳
 ○同日より日向院ひなたのいん之武剛ぶかう羽う生せい以い不ふ動どう寺てら長なが村むら惣そう敷しき寺てら不ふ動どう寺てら八はち本ほん堂どう子こ開帳
 ○七月十六日儒師にゆうし中西ちゆうせい淡たん淵えん卒す
 ○七月十日倭文わぶん子こ卒す
 ○七月二十日名維なゐ章ちやう孫そん号ごう七しち年ねん
 ○同月十日倭文わぶん子こ卒す
 弓丁伊勢屋平石ゆづりいせいやへいし徳とくの娘むすめ一ひと七しち歳さい開帳の門かど小
 入いれて園うゑん字あざ和わ方かた小こ名なあり深川ふかがわ有あ推おききふふ葬まう儀ぎ
 餘あまりり之の長ながササ之の除ぞ屋や方かたせせ知ちりり
 位ゐ聲せいありり何なにともとも知ちりり
 ○八月十二日山縣やまがた周しゅう南なん卒す
 ○八月二日夜永代えいだい格かくの北きたの方かた小
 明和二年めいわに相あ秀しゅう寺てらと改か控くわん仍なほ上かみ入いれ痛いたあり○十二月じふにがつ流りゅう球きゅう人にん來きた陣じん
 宝曆三年癸酉

○七月墨院すみでん川がわ干か浮う小こ大お島しまありあり為な羽う無む四し尺ぶち
 位ゐ聲せいありり何なにともとも知ちりり
 ○七月護持院ごぢいん大だい破は二に付つ江え戸こ所ところと動どう化けをを葬まうるる
 ○八月二日夜永代えいだい格かくの北きたの方かた小
 明和二年めいわに相あ秀しゅう寺てらと改か控くわん仍なほ上かみ入いれ痛いたあり○十二月じふにがつ流りゅう球きゅう人にん來きた陣じん
 宝曆三年癸酉
 正月四日しがつにじゅうよっぴつ六日むいっぴつ八日はちつ大雪おほゆき九日ここのち十七日じゅうしちつ十八日じゅうはちつ為な廿二日にじふにち雪ゆき廿三日にじふさんち日にち大雪おほゆき廿四日にじふよっぴつ二月朔日にがつにち
 二月三日にがつさんち六日むいっぴつ九日ここのち十日じゅうにち十三日じゅうさんち十四日じゅうよっぴち為な十六日じゅうろくにち地震ちきん十七日じゅうしちち雨あめ十九日じゅうきゅうち大雪おほゆき廿日にじふち日にち終はつつて
 廿三日にじふさんち廿八日にじふはちち廿九日にじふくにち日にち為な三月三日さんがつさんち大風おほかぜ名な曉あけ七時しちじより雷かみなり鳴な大雷おほかみなり降ふ六時むいっじ晴はれれはは長なが氣き
 候あきめめ地ち大だい江え戸こ
 ○二月朔日にがつにちより約やく込こ目め赤あか不ふ動どう寺てら開帳○同十六日じゅうろくにちより護國ごこく寺てらににく
 甲州こうしゅう万まん力りき村むら瑞すい命めい院いん信しん去き寺てら中なか寺てら深ふか院いん如に來きた開帳○三月十六日さんがつじゅうろくにち甲州こうしゅう身み延のぶ山やま祖そ師し

甲辰子付江戸到着の日近ひの人教品川より日本橋迄行く何町構中と出さ
新撰ありと云ふ 困徳様中い 四月朔日より深川津より行く困徳

○三月十三日より九月晦日迄薩摩外祀座ありてかゝり人散芝居真形本小会
小四郎之○四月朔日より湯島社地にて武洲一の宮齋川明神困徳○同日

日向院にて武洲熊谷と深院如來蓮生坊新困徳○四月朔日迄新形若草
大師新困徳○四月十音より深川永代にて奥羽金花山弁文天 大金 困徳 教部甲
蟻蛭と細心細工人 右兵衛海へ六月二日より十日迄本母より困徳あり○四月より

九月より麻彦流行人身へ死せ○五月十二日儒師相峯竟居卒 号親圃又白圭
○六月号森良芝居曾我祭今年より始る○六月廿日儒師相月法眼不南
卒 九十二才立羽千翁と云筆比の成務と云筆と 〇七月朔日浅草本法より相洲新の
辞世 空せみむりりの裸へ戻りけり

に祖師困徳○同日より護國寺にて相洲新中村見送山社信院深院如來
不親号困徳○同日より 八日 蕪場町茶師境内にて大坂又より南谷室泉
危寺而至徳太子 東岸 正親吉困徳 蕪岸高徳町提灯燈母胎 〇七月朔日より困
向院にて徳太子大宮親善寺馬込親善寺困徳○月十六日より浅草極楽にて

奥列衣川地蔵院子親世善教堂立住生像 六十二才 困徳○八月廿一日書家
平林悳信卒 六十八才号神女消日居林泉入部 〇十月谷中嶺寺より小会武極楽
始む 月延三十三日身上人極楽ありけり年 〇十月谷中嶺寺より小会武極楽
上合三二面忌ふ高き花屋まふかむ

宝曆四年甲戌 二月間

正月廿日秋生叔達卒 名親号北溪但来の家分也 〇二月より穴八幡宮本地佛
号 氷室明神困徳○日向院にて奥列會津高巖寺園光大師困徳○

二月二日より山姥子八幡宮内にて越後乙宝寺大日如來坐像○二月より
永代寺にて藤枝山本地親世善困徳○護国寺親世善困徳什室を修せむ

○三月十六日儒師莊子謙卒 名益益之佛 妙福寺小孫 ○四月朔日より南都西大寺秋迦

如來開帳 ○四月廿五日儒師谷口千秋卒 林多勝約也 瑞春寺小孫 ○六月三日儒師去登壇直

卒 号琴琴法堂 海禪寺小孫也 ○六月廿五日外人櫻井史登壇卒 後の雲中者 ○幡隨玄院のつゝ頼

和尚谷中三崎小孫賢山法住寺開創 其地ハ溝ハ深ク 所寄附あり 江戸中の男女地形の之

砂を運び日ありて成就す世俗新幡隨玄院といふ ○七月廿二日深世僧師

羽川珍重卒 七十余才之此のち東田吉小孫也其伴由亭の燕石雜志云 此のち今一葉あり ○八月十五夜因の

刻月蝕 皆既 ○八月十七日儒師石島正倚卒 荒波山人と号ス 約也唐昌寺小孫 ○十月改曆領の宝曆

あつみといふ ○十月十六日儒師河合子深卒 号静無称三八 麻布若菜寺 ○十月廿二日師

自在庵祇徳卒 押上大雲寺小孫也 辭世空きてりともあつたをゆあり

宝曆五年乙亥

二月朔日より谷中妙法寺にて至明玉法花寺祖師開帳 ○二月より獲國寺

あて常州 名義益不動寺開帳 ○三月朔日より晦日迄牛山あて社改修 前後

成就と舟岡麻 山根不也 竹後あり ○三月十三日下谷法書寺あて比上本門寺結立祖師開

帳 ○同月十五日より十九日中へ回向院をて明曆下西正月焼死弱死の輩百年

忌免越法あり ○三月十六日より深川永代寺をて信州戸隠の神九頭龍

権現 顯老 同帳 この内神本と高小神子更女の安えあり中名をいふと ○同日より浅草

淨念寺大字利劍名号 法皇十二百様三三 朝日如來開帳 ○茅場町某師内より

ねがふ大山の蘇子易觀世音開帳 ○四月の以下より下総古河恩案橋の造りより

弘法大師の利益ある茶水涌出るといふ俗説を信し貴賤羣集しこの水とを

て或男内(權)と九月迄小彼地を旅舎千軒を列せり又石を文字現を石

より芽を出しし流言を江戸市中の路を誣るりのあり翌年より

止む ○四月朔日より回向院より小金東漸寺圓光大師開帳 ○四月より

兼屋を出し女を花にて砂をまきせり世人大根畑とすいふる世を

宝曆七年丁丑

三月朔日より芝林明宮境内より近江多賀大社屋帳○三月より上野
 清水親世普閑帳至二雲仙林尚徳上野清水寺之景法年破の頼を揚
 ○三月十日より辛日川に善光寺本号跡地如來園帳本堂修葺今年成就
 せり○同十五日より不忍寺又一屋帳○三月より惣宿現社地より武州
 備前金剛寺火防不動尊長一丈屋帳○四月朔日より日向院より安房法橋寺
 満虚堂藏并閑帳○四月朔日より日向院より越後より回善導寺若守大
 師園光大師閑帳○四月より淡草九品寺皆履地藏并閑帳○永代より
 系本山金蓮寺深谷地蔵并閑帳○四月より五月迄霖雨冥东洪水奥州
 飢饉より江戸の米價も次第小登揚せり○七月園東中玉洪水○八月二日

谷中法住寺閑帳了願和尚寂○八月十日下谷坂本小野照修明宗条礼
 出練物木出流之後中修之○八月十四日官儒土肥允仲卒名元成号霞洲
林源記邦市谷
 ○九月五日より淡川八幡宮境内より大花氏劫進徳貞初○田村元
 旌始より湯島小島にて物差會を催し聖年又林田
小舎合あり○真光稲荷社流石出て因樂
 茶登教軒出来て警昌す○十月廿日金胎工押川直政卒六十
七○十一月廿八日
 儒師挑東園卒名道隆牛島
弘福寺小善進○十二月廿六日淡草系船町より出火して火
 大小及ふ所蔵の恙あり

同 八年戊寅

二月八日より木下川某師如來園帳○二月より獲園寺より上野出流山
 子親世普閑帳○二月十五日日向院より常陸康志本地主親世普閑帳
 ○同寺より陸海若孫新善光寺跡地如來園帳○三月朔日より晦日迄

善福寺親鸞上人海上人像開帳 ○同日浅草玉泉寺中相州星降天孫祖師開帳 星降妙純也 此は三原村の天刀也 ○武州大板大聖寺不動尊自坊之開帳者 ○八月令儀札新祝下停止あり ○八月十六日高田穴八幡宮祭礼出し祈り物七出し其後明和也

年近續く ○九月十六日約迎神明宮祭礼産子町より出し祈り物七出し そのうち中絶を 平賀鳩溪湯湯又物産の命を催し 月十二年 又會あり ○九月晦日法皇和尚迎圓宗寺

不寂以 サニテ初推より流法とありサニ今法といり下徳圓羽生於尾修若樂の麻子と母一 法則と号て念仏を進む帰依の道修験一乘九品等の位職とあり一は後高寺不寂せり其前上人得阿弥陀仏と号しを母の願徳とといり宝曆六年三月六日より四月五日迄 ○秋白隠禪師深

川藤川よりあわいて講説あり 諸志の大家都鄙の家賤日毎に群集し其徳と作ぐ 後師へ東海及京の跡の人二明和五年十二月十日化寂あり八十は終といふ 月宿松落寺八其舊跡より神機獨妙禪師と謚し

寶曆十年庚辰 二月二日目尾祐天寺二遊祐海上人寂 名愚蒙 号括蓮社信所 ○二月廿日夜八時赤坂

今井谷より失火して麻布辺日が産雜色十番岡坂三因寺町伊四子聖坂より田町赤川海子に至る ○同月六日戌刻神田旅籠町寺子目明石屋といふ足袋屋より出火乾之風佐之間町辺へいふ及て浅草辺まで播馬喰町本町日本橋江戸橋辺靈巖島新川辺源川へ飛側燒本場の辺追燒亡世三万半燒爰永代橋新文

橋も燒る七日已刻燃火 ○同日芝神町赤太好齋の向湯屋より出火濱松町行門前金杖芝田町本芝海濱追燒亡 ○三月十五日より四月六日中て六河鉢院不沙開帳乃基芥千五十年忌 ○市谷八幡宮甲冑社像開帳 ○王子稻荷社地より越後高田妻日山 鎌信也 本寺 毘沙門天開帳 ○三月廿日より回向院より美濃

國福園誕生寺園光丈師開帳 ○概町公法寺より總列佐倉林寺千手觀世寺開帳 ○四月より八月迄早天 ○四月廿八日英一蜂卒 深川法隆寺中 本庵院ニ葬 ○五月

二日書家猿溪卒 本名元町 三念寺ニ葬 ○九月十九日鳴島鳳姫卒 名信遍字清徳孫乃院 七十二歳卒本傳不詳

○十月十日儒師編纂遷舟卒 七十名名正長孫十九名約也
亮光の孫守男と黙象といふ

宝曆十一年辛巳

正月廿五日圓光大師五百卒年忌 ○二月朔日より茅協町茶師内にて信丹寺

井郡金胎寺不動尊出山釈迦如來開帳 ○三月朔日より淺草善喜寺にて甲

丹遠光寺日蓮上人像開帳 ○三月十二日より本下川茶師如來本堂修復

出来舟開帳 ○四月十日より本処法圓寺にて系本寺古釈迦佛像開帳

○四月朔日より回向院一言親法寺開帳 ○同日より洲崎舟舟天開帳

○四月八日より十七日迄新尊越念佛院中乃娘忌廿又井邊供養 ○四月看

山長老寺阿彌陀如來開帳 ○三回八幡宮開帳 綱が合祀として
美宝不知せう ○雲巖島開帳

協本指為社茶師如來開帳 ○四月八日より淺草玉泉寺にて下徳園塩谷

法宣寺祖師開帳 ○浅草唯念寺あり下野國高田阿彌陀如來 若老
一新分身 開帳

○青山 久保町 寺徳寺十二面親世古賀帳 ○千石谷八幡宮にて武丹入若那山

口村末途寺 秀衡守 車還三尊弥勒如來開帳 ○四月十五日より相次江の高

岩菰舟才天開帳江戸より糸猪寺 ○五月能治師慶紀速卒 卒父谷中
菰舟寺小善也

辞世 以年て始てあまたあつと
殊院小向て中りける ○六月金胎寺大津尋南卒 四十二才
孫名忠 ○八月十七日櫻

町中の芝居 標 座より火燭町葺菰町煎焼 中村勘三郎が芝居の
善後中より不焼 ○九月二日官儒

中村蘭林卒 名明遠林深菰
谷中お林のお葬 ○九月廿二日金胎寺杉浦重喜卒 六十
一才 ○十一月廿

七日儒師井上蘭堂卒 名通照林嘉膳
落合恭雲のお葬 ○十一月二日能人松本淡淡浪花小卒 八十
八才

○十一月廿八日親善上人五百年忌 ○目黒村長泉律院開創堂宇落成 三福
山お

大僧正成春大雲和尚津上伴の寺銭創せんとの志願して入寂の後遺言に如百計千五にて川越
蓮聲寺に主教意上人力を勤て終る成務すの時位感尊寂位門和尙如徳の言えあり臨門師
業状花一巻 ○十二月五日金胎寺稻川直光卒 称文四舟
系舟舟中お葬

同 十二年壬午 四月国

二月日本橋南町焼亡○四月より東本願寺より常陸國水戸磐船山教
 入寺宝物を伴せしむ○八月より深川津島より甲筋小室妙法寺祖師開
 帳○八月より回向院より上徳園子田村村舎を齒吹彌院如來開帳○八月
 浅草西福寺燃香毎五天開帳○麻布一本松大法寺大黒天傳教大師
の他二面開帳
 ○高橋如來寺より多摩郡日原村一石山十一面觀世音開帳○高橋安
 申堂開帳○足立郡鴻巣安福寺日蓮上人牛込宗相より開帳○昨年
 山王洲祭礼延引今年六月既行あり○七月より永代より成回不動寺より
 帳○伊豆子長尾より越中系浪谷本法寺海中出現法花後紺地金泥大
 曼荼羅お招せしむ○谷中大杉より下総水戸野法蓮寺日蓮上人像開帳
 ○牛込園福寺より豆州加殿妙國寺日蓮上人開帳○浅草新所宗安寺七
 重觀世音開帳○浅草極寺員佛所法蓮如來開帳○十月三日書家新田

耕山卒

名推通林甲四郎
名子建徳寺小葵

○十月龜戸龍眼寺小殖髮の冬子を安置以在系郡

清原清谷寺小立一像之

寶曆十三年癸未

二月十五日より龜戸龍眼寺殖髮聖徳太子開帳○二月より深川玄信寺
 河津院如來開帳○二月廿五日より二月廿六日迄龜戸天満宮社殿建立成就
 付開帳○三月九日より押上大雲寺觀世音開帳○三月廿三日より回向院
 より上州大同山聖徳太子開帳○八月八日より浅川津島より堀の内
 妙法寺祖師開帳○四月朔日より芝如來より河内森井八幡宮開帳
 ○四月七日滋小町より出火救急屋指所門前追焼之○六月十日山谷巽
 田明神祭禮産子町より出火物を出其後休む○六月廿一日
 画家狩野祐清英信卒号如満寺四十七
浅川津島寺小葵○長崎より傳一と号一生年々

よりて冬活小いむ日せ撰びしとて一枚摺と賣歩り○六月能優萩野八重
 桐船に乘中河ふ起碎身の餘り蜆せろんとて川下り立歩き一落入弱死を
 平次鳩溪根よりまとりつる紙をつくとそる成のぶ○八月廣東人參
 高賣を止めぬ○九月朔日日蝕九分曆面不脱せりといふ○九月廿四日
 泰礼所年より延ひ當月既行○十月廿四日同所より同田治助
 朝鮮人參座を令せらる○十二月十九日書家篠田行休卒名貞貞号金溪
 陸人小日向全別
 古今相撲大全梓行木村政務
 著○志道新傳梓行風来山人
 裁編
 此年間記事
 日暮里の多森稲荷三徳社
 の外新ふ不動精尺○坊上高塔院公光院赤羽根
 川嶋へ移る○目黒幡籠古境内窟出来る○宝曆中淺沼山の上人本
 歌よとて江戸並近生合々弘法大師八十八箇取系始る大進松路
 よりり○杖森

稲荷を宝曆九年迄隔年産子の町より花中一練坊社遷せ渡りたるが其後
 中絶也○小野照海明社系隔年梓遷せ練物をやりたる宝曆七年より
 中絶也○宝曆末より矢口新田社より系消多し社地より矢を賣始消入求て者
 と是○根岸田老も倉中練のち盛の以貴後越親多し○婦女菅笠
 磨りまじ紙にて張る日傘行る○夏合相夏火事羽織漸く始る○土産
 節淨福瑞磨れ江戸並河東並大坂の義方と并京の蘭八公並正徳前未の
 淨より行る○卜者平次方内ね学若林登軍書講練師深井志道新
 傳志道新傳
 あり滋野瑞竜成回壽仙も行る志道新傳
 あり○北頃大屋形松六七十艘ありし
 よし塵垢終よいら○且那のねつと膏業と唱て市中業を賣る者あり○
 浮世繪師於末美信石川豊信秀範と号六掛園飯盛の次ありて
 る繪師の縁取ぬや七五席といふ有辰清倍山本茂信
 糸本 鬼玉其外多し○好事の輩古物を集る事多し

○は時代世上の風俗をのりて故名本邦れ救あ棒切しけるを撰て洋判記を
 作り千石節と歌は中蜀山人の水滸論を別て賞せり ○著紀逸武玉川と
 りの俳虫十六篇をいりり人の炙柄と川柳が折柄も是より出り出ると云
 ○山本静観坊といふ者下巻漢義といふ多紙をありて世に流る載りところ
 載文あれども教戒の言を用い人の著書十三部程あり
著述月録ふりてり漢義の
 回向院ふりてり下巻漢義
 仍れ六作人の作あてこれをば返者下巻漢義
下巻漢義羅字集は過漢義あてり下巻漢義の中
 とありすいり死
 ○家取小東尾巻云云既河巻を上りて左の方小番物川端は石
 工物それが家の前より男女の石像あり是は宝曆の以巻戸小砂屋ありて其家の
 主婦の石像といふ後年巻巻くと能くする子孫もあきありしや取あまら
 次は後巻巻小晒れを文化の字底をよびて賽砂舟をゆりしは主婦石
 と号して何る流り立形も人多くと云く ○宝曆三年の以より大文字巻の

大うがわわといふ童謡あり
吉原赤町ちみまな市を傍うらりてり
 のどいふんかあわと響や中夜自らかくしひて人を恋せけるを
蜀山人は名世説は
 名えり
 ○寄合茶屋清葉巻巻深川西宮宮あり ○標世茶盛不不
 けり宝曆の如豊竹肥後縁終りしうと未決が芝居ふありて尚藝昌し中
あくち 縁平葉
 福内 鬼外 内内
 降福摘ああとい作りゆせり何れも佳化之
昭和七年ふ能まる久は
 波の上より標よりけり
殊に藝
 昌せり
 ○宝曆中西村重長が繪本江戸みやげ國中あ國涼の茶は林葉
 茶葉貴の茶根茶一見世毎はは悦をよる中保派と記せり吉原ふ十折編
 茶茶巻小編は是約りて有り安邦の女子帽子をむる漢葉茶茶巻の
 何んとう ○茶葉あざ有り ○婦女の衣敷丁子葉の色を好み花巻を
 やみ茶塗の櫛旭の櫛と有り 象牙の弁も流るり ○硝子の外國のり流るるを
らんん ちんちん
 蘭人指渡り中古茶葉をて製するりを得京大坂小橋丁を近以茶葉と
その巻く丸
 して職人多く出来て其の器を製し流業と流る者ありしは中尾巻巻云く

ビドロを蒙^{えん}後^ごよりホルトカル^{のりか}辭ありと○横山町を丁月^{きんげ}改^かて清^{せい}とりの工^{くわ}更^{さら}して田舎^{いんが}み用^{もち}る綿^{わた}こ^の織^{オリ}是^こ追^お井^いよてわ^らしと鉄^{てつ}より作^{つく}り
つ^つむ○圖書^{とくしょ}集成^{じつせい}一^{いっ}万^{まん}卷^{けん}康熙^{こうせい}帝^{てい}の自^じ撰^{せん}之^の宝^{たから}曆^{れき}十^{じゅう}二^に年^{ねん}船^{せん}来^{きた}して
官^{くわん}庫^こへお^おさめらる^{らる}よ^よ安^{あん}齊^{せい}湯^{とう}字^じふ^ふく^く何^{なに}も改^か元^{げん}以^もあ^ある^るよ^よ

明和元年甲申 六月十三日改元 十二月間

二月十六日朝鮮人^{しんじん}来^{きた} 正使鄭尚厚副使李仁培 後率皓樂仁李致等旅宿 三月六日上野^{かみが}より曲^{まが}馬^ま何^{なに}り清^{せい}

人^{ひと}の物^{もの}す○二月より目白^{めびやく}不動^{ふどう}寺^{てら}開^{ひら}帳^{ちやう}○深^{ふか}川^{がわ}永^{なが}代^{しろ}寺^{てら}之^の系^{けい}栗^り田^{でん}に青^{あお}蓮^{れん}院^{いん}宮^{みや}に拈^{ねん}笑^{せう}不^ふ和^わ寺^{てら}

則^{すなは}經^{きやう}寺^{てら}祖^そ師^し開^{ひら}帳^{ちやう}○深^{ふか}川^{がわ}永^{なが}代^{しろ}寺^{てら}之^の系^{けい}栗^り田^{でん}に青^{あお}蓮^{れん}院^{いん}宮^{みや}に拈^{ねん}笑^{せう}不^ふ和^わ寺^{てら}

三^{さん}条^{じょう}小^{せう}波^は作^{さく}お^お提^{だい}指^し着^{ちやく}明^{めい}神^{しん}親^{しん}香^{かう}上^{じやう}人^{にん}殖^{しょく}發^{はつ}像^{ざう}開^{ひら}帳^{ちやう}○茅^{ちやう}場^{ばう}町^{ちやう}茶^{ちや}師^し内^{うち}よ

奥^{おく}州^{しゅう}安^{あん}達^{だつ}系^{けい}人^{にん}肌^{かわ}茶^{ちや}師^し如^{ごと}在^{ざい}性^{じやう}○田^{でん}向^{かう}院^{いん}を^を武^ぶ州^{しゅう}橋^{はし}掛^か郡^{ぐん}山^{さん}に親^{しん}世^{せい}寺^{てら}開^{ひら}帳^{ちやう}

帳^{ちやう}○月^{げつ}某^が不^ふ動^{ふどう}寺^{てら}内^{うち}に^に之^の相^{さう}及^{じやく}大^{だい}山^{さん}林^{りん}兼^{けん}子^し安^{あん}地^ち孫^{そん}寺^{てら}開^{ひら}帳^{ちやう}○三^{さん}回^{かい}喜^き日^{にち}明^{めい}神^{しん}

開^{ひら}帳^{ちやう}○田^{でん}向^{かう}院^{いん}を^を伊^い勢^{せい}山^{さん}回^{かい}入^{にゅう}門^{もん}寺^{てら}結^{けつ}院^{いん}如^{ごと}未^ま 古刹支丹逆治 幡蓮院感得 開^{ひら}帳^{ちやう}○淡^{たん}草^{そう}報^{ほう}恩^ん

寺^{てら}ふ^ふ、奥^{おく}州^{しゅう}南^{なん}於^お本^{ほん}誓^{せい}寺^{てら}親^{しん}香^{かう}上^{じやう}人^{にん}宝^{たから}物^{もの}を^を拜^{らい}せ^せむ○二^に月^{げつ}廿^{にじゅう}日^{にち}夕^{ゆふ}七^{しち}時^{とき}

林^{りん}回^{かい}新^{しん}報^{ほう}所^{しよ}より出^で火^か水^{すい}風^{ふう}烈^{れつ}く^く蟻^{あひ}燭^{しやく}町^{ちやう}多^た町^{ちやう}堅^{けん}三^{さん}町^{ちやう}新^{しん}石^{せき}町^{ちやう}鍋^{なべ}町^{ちやう}船^{せん}治^ぢ

町^{ちやう}西^{せい}側^{がわ}皆^{みな}川^{がわ}町^{ちやう}永^{なが}富^ふ町^{ちやう}松^{しょう}下^か町^{ちやう}孫^{そん}倉^{くら}町^{ちやう}三^{さん}河^が町^{ちやう}是^こ町^{ちやう}目^め本^{ほん}報^{ほう}町^{ちやう}一^{いっ}月^{げつ}本^{ほん}石^{せき}町^{ちやう}本^{ほん}

町^{ちやう}是^こ町^{ちやう}目^め石^{せき}橋^{はし}追^お燒^や日^{にち}夜^や八^{はち}時^{とき}色^{しき}船^{せん}治^ぢ橋^{はし}肉^{にく}へ飛^と火^か月^{げつ}河^が門^{もん}燒^や明^{めい}六^{りく}時^{とき}所^{しよ}獲^とる

韓^{かん}人^{にん}選^{せん}留^{りゆう}の^のうちを^をあ^あり^り ○二^に月^{げつ}中^{ちゆう}旬^{じゆん}平^{へい}賀^か鳩^{きう}溪^{けい} 縁 火院布をより創製

火^か院^{いん}布^ふを^をよ^より創^{そう}製^{せい} 縁 火院布をより創製

火^か院^{いん}布^ふを^をよ^より創^{そう}製^{せい} 縁 火院布をより創製

火^か院^{いん}布^ふを^をよ^より創^{そう}製^{せい} 縁 火院布をより創製

火^か院^{いん}布^ふを^をよ^より創^{そう}製^{せい} 縁 火院布をより創製

火^か院^{いん}布^ふを^をよ^より創^{そう}製^{せい} 縁 火院布をより創製

火^か院^{いん}布^ふを^をよ^より創^{そう}製^{せい} 縁 火院布をより創製

○今年五月より昭和六年九月まで目録村を敷指普清成 享保の本村倉庫が
主として撤去せし再修せる

○六月龍戸聖廟の債目能人之申 龍戸の債目能人之申

○六月の比より深川 深川の比より

○七月九日より十月十日迄護國寺を修文三十比番札所親善物困

○十月廿二日清より清元祖富本寺 清元祖富本寺

○十一月琉球人某正使横谷山王子 王子の名を朝恒といふ和人のひとく
とつひとつひの琉球流法

○十一月廿八日能人活井喬宝卒 七十一才 薨る中
光徳の葬儀

○十二月町火消の内法曲輪道十三組一統吐水 吐水の組は日後
派分不出来たり

○十二月廿三日夜五半時村田園口町より出火して村田町に於て焼明七 焼明七の時

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

○閏十二月十七日昭六所派多田町より出火して大川端聖天町迄於焼せり

形之助と稱する者あり
 志乃形と稱する者あり
 又同時小湊野瑞就軒といふ講釈師も昔より名を著し其男甚藏父の名を継て
 吉耕せり
 ○四月日光山所村忌万部新法會
 ○飛戸村あり鉄鋸を鑿りてあ
 らる
 ○六月より平井浦を境といふ若深川所村の東に於て除土を長十七町餘を
 一丈二尺に於ける踏碁を築立新なる廿万坪餘の地を宇見製成元年七月廿日
 日より塩を焼始む所の所を平井新田といふにたりるもの人夥くは安永
 小いよりなるもあき止り
 料理も出まて移り
 ○秋發切をり
 七月
 朔日より日向院より武及府中深大寺厄除元三大師開帳
 ○同日より永代寺
 あり發及居士福野厚系等我八幡宮
 神像玉波明神
 開帳
 日より日向院より梅田村不動尊開帳
 ○七月三日田舎村より山吹河原院より
 開帳
 ○八月三日大風雨深川辺甚餘床上に水あり
 ○八月十六日二集判官吉清

死 十餘人
 ○芝浦より一丈余の魚上る後西國橋畔より見せ物と云色白く鱗あり
 較の如く名をマンボウと云
 ○九月五日銀通用始り
 ○九月七日儒師長井崧州
 卒 名孝先稱郡長史
 ○九月向院使き神田明神祭禮九月廿三日不候に神樂院
 する所の町々横町の一切神主及び小僧と為年より柵を結ぶる小成り
 ○十月廿五日儒師本村遠葉卒 名貞賢字君忠
 ○十一月神田今川橋より右左除
 土を再興
 ○十二月神田依久町小醫學館建 多紀氏
 ○十二月四日昼時目白
 臺より出火夕七時迄燃る狀焼多し
 ○十二月廿九日書家園思恭卒 九十
 号風岡林内山石川
 林名寺小葉川
 明和三年丙戌
 二月朔日より永代寺より三洲伊賀村八幡宮本地茶師如來開帳
 ○二月
 廿日より所義前花徳院より三石海郡上重原村遍照院弘法大師開帳

○二月廿九日堺所製油の店音形より火火して高野の芝居敷焼く大風ふ
 しく焼産ぐり囚獄の辺にさるる○三月十二日下谷溝に家より火火車坂下まで
 焼亡せり○四月朔日より日見不動寺より下野國若船山に蔵す園帳
 ○同日より 祐天寺跡跡妙見福久傳正像園帳○同日より 濃谷金王八幡
 宮園帳○久保保法若寺七面明神園帳○四月朔日より 日向院にて大和
 原原光寺天満宮本北十一面觀世音園帳○高田院八幡本地佛開
 帳○谷中宗林寺舟吉三郎鬼子母神祖師天満宮園帳○幡谷庄莊
 寺不動寺園帳○芝野宕社地にて武州多摩郡國分寺藥師日光月
 光井園帳○七月六日浩如小日向小石川本所の辺にて水害塔より
 ○靈巖島理立地成る俗に 藥藪島といふ○七月朔日より 日向院より
 川崎真福寺茶師如來園帳○同日より 日向院にて 津島

大社守佛親世維ふ其屋室よ玉子の如あり 園帳○同日より 濃茅寺内社高院史六年才天
 腹菴寺若手帳八月日○同日より 濃茅寺境内にて紀及加太濃島神社本
 虚空藏菩薩園帳○護國寺より 強河富士山宗人の來迎三尊佛園帳
 ○濃茅樵寺より上乃甘樂郡白井源空寺茶師如來園光大師園帳
 ○龜戸祇園寺中池辺小教林の萩を裁り是より毎年盛の以寺後
 遊覽の地と成る寺阿曇倉師の説ふ此時代と當ちの辺に盜賊能個して此其の人の衣類
 を剥奪す衣類もと奪りけるを至惡名を裁て萩と名しめりと
 りりするや○十一月六日倭人柳新斎茶瓶卒五十才 駒込地性寺小善以菅神尊納福吟
 台とあり
 明和四年丁亥 九月間
 正月元旦未八刻より申刻迄日蝕二分○四月朔日より 永代寺にて 江尻井生
 島毎才天西本札所親世若園帳○同日より 津川海崎茶才天園帳○同日より
 日向院茶才天園帳○四月より 日見寺幢と銘護權院全畏院 毎才天

開帳 ○四月より谷中奉先古祖師開帳 ○後町稚子宮宝塔元三大師開帳
 ○相五郎の高下の宮舟才又開帳江戸より来訪多し ○国東川に流あり
 ○四月九日約形町より山火流きたる風雷神門焼る二神像金龍山の額を
 恙多し ○真先神明宮の地より辻大納言家長卿沖不持あり ○菅神
 の像せりて劫焼あり ○四月十二日儒師赤松太度卒 名弘 六月八日儒
林在年
 師服初仲英卒 名稚南郭の 七月廿二日儒師大敷藏塘卒 名良真林名忠
後実成り小藤
 七月廿四日林陰流叙州師長沼四郎元清門國々卒 公十六二箇 八月三日画人
初運り小藤
 波辺浸水卒 早父名從林去為麻布若福も小藤以 八月十五日田元八幡宮祭礼
男七妻對と云ふ小画を若くす文政中卒也
 産子町より出し殊物と出れ林樂林樂坂の沖旅一旅一もの只 生从未
中絶也
 ○十一月晦日儒師赤松少時卒 名舊那太度の又之 十二月五日銀
麻布若福も小藤
 のりおるよふに金をふ十二枚の通用と成る ○十二月書家飯田百川

卒 名祝清林源巳郎 廣海の門人之く後董其昌を學ぶ近世
西久保青純も小藤 董帖を摹するもいんより好むといふ

明和五年戊子

正月廿七日英一蝶が養子一舟卒 徐保三弟名信持号東窓為
二本松兼教の中頭文院も卒也 ○二月廿日より
 王子権現王子稲荷明神開帳 ○二月三都より降土真宗の怪しき法儀
 を行ひ一りのせ刑せらる 俗よおん門徒と いひんこれあり ○三月千訪が谷聖橋寺如意輪觀
 世音開帳 ○三月十六日より永代寺あて京大原野春日明神開帳 ○三月
 廿日より三田八幡宮開帳 冥宝不全れうれありと 日向院にて尾洲野間の内海大
其のりりのゆ
 河堂地蔵寺開帳 ○三月大師河原村百姓太郎左衛門砂糖を製し弘む 製法
竹授
 せ文も若多し紀易名不圖合おりの以より紀易府城の為漢雜實登町あり雜實在何某製
 法を傳へて地在田粒小豆島村の田畑不甘蔗をうめてこれを製しける今法を小製法りりの彼が
 傳を文する者か一といひ製法の多平賀越溪の物製品陽よりつりこの時代を
 砂糖不取り新製の物とのみん好より一慶徳後より今に般と和製法の物なり ○四月朔日
 より其る弘法寺祖師開帳 ○四月六日曉八時吉原江戸町或丁目より山火大

風よ之廊跡より又十軒送中七焼亡也 明曆丁酉の災後高野へ移りて後災災ふくたし

六月廿六日 六月廿七日 六月廿八日 六月廿九日 六月三十日 六月廿一日 六月廿二日 六月廿三日 六月廿四日 六月廿五日 六月廿六日 六月廿七日 六月廿八日 六月廿九日 六月三十日

七龍祠和製を命せられ三都小集り 六月九日鳥越明神祭禮神楽を演

産子所より出し練物を出也 六月十六日夜四時五十分大雷

○九月十八日 哥人村田妻郷卒 二十才妻海の兄あり

明和六年己丑

正月五日 書家之願斎卒 名玄融牛込町

谷安ふち 祖師閑帳 ○谷中本妻より下総野呂妙島之祖師閑帳

○三月十五日より 龍戸天満宮内之越後高田春日明神本地親老音

并ふ不和之閑帳 ○三月より 護国寺あり大和子島より大峯洋仗役

者閑帳 ○押上春慶より菅賢井閑帳 ○四月初日 永代寺四圍琴弾山

の字阿弥陀如来天地不動尊本自坊より閑帳 ○月八日より 湯島社地

て和泉石津大社笑姿閑帳 式内の社と云社人石津連と云この時巫女二人あり

○四月七日より 田向院あり川口善光寺阿弥陀如来閑帳 ○浅草寺境内

多て奥州二本松鏡石寺 安達東照神運所 親世寺閑帳 ○四月十八日より 六月八

日迄浅草寺親世寺閑帳 ○五月初日より 浅草権ちあり常陸鹿島廣徳

寺麻島本地赤童子閑帳 ○同日より 所花前十五堂より 和及町屋村梅

雲より三玉荒神宇帳 ○七月廿一日 哥人村田喜道卒 東海の又あり ○七月下旬

より八月下旬迄 瑞星現老長教丈第の如 瑞星といふ ○八月廿六日未刻

より大風兩雷鳴あり人家を傷損を弥川三十三万壹倒る ○七月廿二日

算術師長部綱采卒 孫左方史 ○九月十日小石川氷川明神祭礼産子

牛込寺傳ふ小暮

○九月十日小石川氷川明神祭礼産子

町より出づ練物せしむ休む ○十月風邪流行其後始りてはかゝり大家
少くは業を多擧り入ると

運以下級不あつた ○十月十二日官儒青木崑陽先生卒七十二才号草廬祿文菴云
漢唐草七他り始りれ故

甘藷先生との同定遊來もの
後の山ふみふの碑文をよむせり

一面甘藷先生墓とあり右の方ふかば瀋以

享保二十年青木敦書蒙命種甘藷因人呼予曰甘藷先生甘
藷流傳使天下無餓人是予願也今作壽塚書石曰甘藷先生墓

左の方ふ

君諱敦書字厚甫源姓青木氏号昆陽元禄十一年戊寅五月十
二日生明和六年己丑十月十二日終寿七十二葬于下目黒村
別野南 君為儒堂葬地于此故也

○十月廿六日金雕工濱野政隨終七十三才
称太郎吉米

○十月晦日加茂真淵翁江戸終七十三才
少林院に葬り

武江年表卷之五終

